



地域日本語支援ニュース こだま 第 256 号

2014.6.12



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■AJALT からのお知らせ■

機関紙『AJALT』37 号 発刊に寄せて 編集長 山本紀美子

2■スピーチコンテスト出場者募集のお知らせ■

第 3 回 看護・介護にかかわる外国人のための日本語スピーチコンテスト
一般財団法人海外産業人材育成協会 HIDA 日本語教育センター

3■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報(6 月・7 月・8 月)

=====

1■AJALT からのお知らせ■

機関紙『AJALT』37 号 発刊に寄せて

編集長 山本 紀美子

機関誌『AJALT』37 号がこの程完成し、例年通り 6 月 10 日に発行
されました。『こだま』ご愛読の皆様に 37 号出来たてのほやほやの
ニュースをお知らせいたします。

◆シリーズ：「私とことば」◆

あの矢野顕子さんが登場します。シンガーソングライターとして日本と
ニューヨークを行ったり来たり、分刻みのスケジュールの中、『AJALT』編集
部は見事インタビューに成功しました。音楽はもちろん言葉に対する真摯な想

いを飾らない態度で話してくださり、編集部一同すっかり矢野フアンになってしまいました。

◆特集：「文字は旅する」◆

文字と聞くと、何を思い浮かべられますか。まずは漢字でしょうね。そして、ひらがな、カタカナが続きます。このように、日本語は三つの文字を組み合わせ、文章を綴ります。これは世界的に見ても大変珍しいことなのです。日本に漢字が伝わり、やがてカタカナ、ひらがなが作り出され、今日までずっと日本人はこの三種の文字を使い続けてきました。三種の文字は長い時間をかけて形や読み方、その数など、さまざまに要素を変えながら、現在私たちが使っているような表記法にたどり着いています。きっとこれからも、スマホやタブレットなど新しい機器とともに、姿を変えながらも日本人の想いを載せて旅を続けていくことでしょう。

今特集では、文字を脳神経科学の目から、また歴史的側面、日本語教育からなど、幅広い視点で取り上げました。東京女子医科大学名誉教授岩田誠氏には、「脳機能から見た‘文字’の世界、神経文字学」と題して考察していただきました。またご寄稿文として、清泉女子大学教授今野真二氏が「日本語表記の多様性」、昨年度 AJALT 公開講座講師で書家・文字文化文筆家宇佐美志都氏からは「あなたへ」と題して、それぞれ素敵な文をお寄せくださいました。

日本語教育の立場からは、筑波大学人文社会系教授加納千恵子氏から「漢字の面白さ、楽しさを伝えたい」、ヨーロッパ日本語教育研究所代表を務められている山田ボヒネック頼子氏からは、「アルファベット脳を漢字脳化する」と題したご寄稿文をいただきました。読者の皆さまも文字について、きっと新しい発見をされることでしょう。

前号で目次をお知らせしましたが、特集関連の記事は盛りだくさん、「文字遊び」の楽しいページもあります。どこからでも関心のあるページから読んでください。学習者の作文や、聴覚障害を持ちながらもご活躍中の若い日本語教師の奮闘記など、笑いや感動を呼ぶページもあります。

どうぞお手にとってご覧いただき、感想などお寄せいただければ幸甚に存じます。今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。

☆ ★ ☆ ★ ☆

■ご購入希望の方は、当協会 HP よりお申し込みください。(定価 800 円+消費税+送料) 冊数には限りがありますので、お早めどうぞ。
